

# 企業等と連携した授業の紹介



「社会に開かれた教育課程」の実施に当たって、地域・企業等外部の人的・物的資源を効果的に活用することがポイントになります。実際には、どのように教科で外部の教育プログラムが活用されているのでしょうか。学校から寄せられた要望に応じて実施した、企業等の教育プログラムを紹介します。

この企業等の教育プログラムは、教科学習分野のプログラムアドバイザーである「NPO法人企業教育研究会」が企業等と連携して実施したプログラムです。

企業教育研究会

検索

## 安全教育に専門家の知見を得るには？

一般社団法人日本自動車工業会  
「みんなで学ぼう クルマの安全」

45分×1コマ～2コマ

対象：小学校1～6年生

関連する教科等：3・4年生：社会（安全を扱う単元）  
5年生：社会（工業生産を扱う単元）  
安全教室



近年、交通事故の死者数は減少しています。一方で、見落とされがちなのは「クルマに乗車するときの安全な乗り方」です。実は、12歳未満の子供が「車内でけがをしたり、危険な目にあった経験がある。」と回答した割合は約3割（JAF調査）。その大半は、安全な乗り方を守っていれば、防げるものです。日本自動車工業会に所属する自動車メーカーの社員が、危険予測の映像と副読本、ワークシートを使いながら、クルマの機能と安全な乗り方を解説します。2コマ展開の場合は、自動車生産の写真やクルマの構造なども解説します。

先生の声

シートベルトの正しい締め方は授業を見学していた保護者も「知らなかった！」と驚いていました。衝突実験の映像も子供たちの印象に強く残りました。一部の子供たちは目を輝かせながらゲスト講師と休憩時間中に交流していました。ドア1枚でも多くの部品でできているなど自動車会社ならではの解説は、社会科の工業生産の単元に入ったときに思い出させようと考えています。

## 議論を重視する道徳の授業を実施するには？

アクセント株式会社

「考え、議論する道徳・キャリア教育  
～その日、教室が『会社』になる～」

50分×2コマ

対象：中学生

関連する教科等：道徳、社会科（公民分野）、  
総合的な学習の時間（キャリア教育）



子供たちが大人になった際に直面するであろう、会社を始めとする組織における意思決定について学ぶことは、現代における道徳として重要と考えました。本プログラムは現実に起こり得る正解がない問いを議論のテーマとして設定し、中学生が多様な視点・情報・価値観を持ちながら議論を重ね、立場の違う人がいる集団での合意形成と意思決定を体験する授業です。生徒は、未来の世界で観光業を営む会社の社員に任命され、社長から与えられた経営課題に対して真剣に考え議論します。アニメーション教材を用いてキャラクターが授業を進行するなど、授業に自然と没入できるような工夫が行われています。あわせて生徒の議論をファシリテートする社会人が複数人付き添い、より深い議論ができるようサポートします。

先生の声

「意思決定シミュレーションゲーム」と銘打ったこの授業。子供たちが、これから正解のない問題に遭遇したとき、何を優先し選択していくか、その判断のよりどころを教えてくださいました。そんな授業だった。新学習指導要領で文科省が掲げる「どのように学ぶか。」を体現化している教科横断型授業として、様々な角度から取り組める教材になるのではないかと感じている。

## タブレットを使わないプログラミング教育は実践できますか？

伊藤忠テクノソリューションズ株式会社

「未来実現IT教室～みんなでチャレンジ！ITエンジニア」

45分×2コマ

対象：小学校5、6年生

関連する教科等：産業や情報化を扱う単元、プログラミング教育



身の回りのITシステムはどんな人たちが作っているのか？ITエンジニアとは一体どんな仕事なのだろう？そんな疑問にも答える授業です。子供たちはITエンジニアとなって街の配達システムを考えます。教材は色に反応して動くセンサーロボットと道路が描かれた街の地図。授業ではプログラミング言語は用いずに、各班で仮説を立てて最適な配達ルートを考え、検証を繰り返しながらプログラミング的思考を体験します。

先生の声

このような経験を子供たちがすることは、教員だけではなかなか難しいためとても有意義でした。また、後期に学習する「社会を変える情報」の内容と合致しており、学習する全てのことがキャリア教育含め今後に活かされる事が分かる内容でした。授業の日の下校時に「またITの勉強をやりたい！」という児童もたくさんいたので、違う内容のプログラミング学習も是非やってみたいと思いました。

## 理科の授業で活用できるプログラムは？

株式会社東芝

「電気をあやつるふしぎな素材！？」

～半導体の発見・利用から学ぶ  
エネルギーの使い方～

45分×2コマ

対象：小学校5年生～6年生

関連する教科等：6年生：理科（電気の利用を扱う単元）、5年生：社会（工業生産を扱う単元）  
総合的な学習の時間（環境分野）、プログラミング教育



理科で実施される電気に関する学習。電気回路は私達の身の回りの電気製品の中で様々な働きをしています。その仕組みを知る機会はありません。株式会社東芝では半導体を題材とした出張授業を提供しています。ありとあらゆる電気製品の中で電気を操っている半導体とは一体どんなものか、理科の学習内容と結び付けながら学習できます。実験や電子回路工作を交えながら電気を学習し、社会での電気の利用の変遷と結び付けるだけでなく、授業の後半では技術による環境課題解決の議論を通じて、論理的思考力や問題解決能力の育成を目指します。

先生の声

子供たちは自分たちの手で電気回路を作ることができたという達成感を得るとともに、身の回りの生活をより便利にしながら環境を守るために、自分たちにできることは何かを考えるようになりました。知らない世界を知るきっかけとなるとともに、キャリア教育としても活用できました。また、理科の学習を基に身近な電気製品の仕組みをシンプルに理解でき、半導体や電気回路への興味が高まることで今後のプログラミング学習への意欲付けにもなります。